

## 第2回里山フェスティバル「里山シンポジウム」14分科会中 本日開催される6分科会の開催趣旨

分科会no. 名称	テーマ	趣 旨	分科会開催場所・日時・スケジュール等内容	参加委員メンバー
11. 里山と政策分科会	子どもと里山	木の枝で隠れ家をつかったり、落ち葉を集めて積み上げたり、つるにぶら下がったり…。いったん森の中に入りさえすれば、子どもたちはそれは生き生きと自由に遊びを編み出します。里山は創造力をふくらませる「場」。 里山に子どもたちの声が響く保育園、子どもたちを自然の中で育てたいとの思いからプレーパークを実現したおかあさん、都市部でも豊かな自然の遊びを提供する自治体の取り組みをお話しいただきます。豊かな自然の中で子どもたちを育てたい、それは誰もが望むことです。同じ思いを持った各主体による様々な取り組みを知って、それぞれの地域で実践していくためにはどのような取り組み、働きかけが必要かを考えていきたいと思ひます。	シンポジウム： 日時 2005/5/21 場所 我孫子市中央学院大学 6号館 3F 633教室 )にて開催 10:00～10:05 あいさつ、主旨説明 10:05～10:25 事例紹介 :里山保育園 (富津市和光保育園園長 鈴木真廣氏) 質疑 10:25～10:50 事例紹介 :子どもたちの森 (千葉市役所緑地部 鈴木康博氏) 質疑 10:50～11:15 事例紹介 :プレーパーク「どんぐり」の森 (四街道市古川美之氏) 質疑 11:15～11:30 全体質疑 11:30～12:00グループ討議 12:00～12:15グループ発表 12:15～12:20まとめ	代表 小西 由希子 副代表 内山 真義 記録 伊原 加奈子 委員 金親 博榮、瓜生 達哉、長正子、小西 朝希子
10. 里山と観光	里山の四季を活かした観光	里山を観光資源として活かすには、どのように保全、活用していけばよいかを考えます。そのために、まず、里山のイメージの共有と価値について考え、そして、現地を見て、語り合いたいと思ひます。	シンポジウム 1: 日時 5月21日 場所 我孫子市中央学院大学 6号館 3F(634教室)にて開催 講演:「里山の四季を語る」出演者 浅井 桑男 シンポジウム 2 日時: 6月18日、19日 時間 6月18日(土)12:00から 19日(日)9:00から 会場及び集合場所等: 道の駅「ローズマリー公園」丸山町内交流・体験センター 所在地 安房郡丸山町白子1501 内容: 里山ハイキング 安馬谷の里山をハイキングし四季の里山を見学 集合時間: 12:00 当日持参する必要物: 保険証、飲み物、雨具等 6月19日について 内容: 前日ハイキングした安馬谷の里山を題材に、里山の価値について語ります。またその価値をどう観光に結び付けていくかの可能性について考えます。 集合場所等: 道の駅「ローズマリー公園」丸山町内シェイクスピア・カントリパーク	代表 横山 武 副代表 朝倉 常夫 記録 笹子 全宏 委員 遠藤 勇
11. 里山と水循環	健全な水循環」～恵み豊かな水を子どもたちへ～	生き物を支えている水が昔に比べると病気になるかかけています。健全な水は、私たちに豊かにし、生き物すべてを元気にします。そこで、今回は特に地下水に目を向けながら、私たちの身の回りの水を元気にするにはどうすればよいか、恵み豊かな水を子どもたちに残すにはどうしたらよいか、話し合います。	シンポジウム： 日時 5月21日 場所 :中央学院大学 6号館 3F(635教室)にて開催 10:00～10:05 あいさつ 趣旨説明 10:05～11:00 講演 佐倉 保夫氏 (千葉大学理学部地球科学科) 11:00～11:10事例発表 ①「印旛沼のみためし行動」三品 圭史氏 (千葉県県土整備部) 11:10～11:20 ②「名戸ヶ谷湧水と子どもたち」篠崎 将氏 (名戸ヶ谷ビオトープを育てる会) 11:20～11:30 ③「手繰川協働事業と畔田での市民活動」小野 由美子氏(さくら人と自然をつなぐ仲間) 11:30～12:20 意見交換会 コーディネーター 瀧 和夫氏 (千葉工業大学生命環境科学) 12:20～12:30 まとめ 野外体験: 親子で体験! 船に乗って手賀沼の水調べ 生き物探検」 日時 6月12日(日)10:00～15:00 集合場所:手賀沼水の館前 場所:手賀沼周辺 参加費無料募集人数30名(往復はがきにて申し込み) 内容: 船に乗って手賀沼の水調べを親子で体験し、周辺の生き物探検をして、自然・水循環を体感する 持ち物:お弁当 飲み物 敷き物 雨具 望遠鏡など、歩きやすい服装	代表: 荒尾 繁志 書記: 桑波田 和子 実行委員: 瀧 和夫、千葉 智雄、吉田 正彦、鈴木 優子、三品 圭史
12. 里山と野生動物	里山の野生動物との共存を考える	千葉県では、サルやシカ、イノシシなど野生動物による農作物の被害が多数報告されています。中心になっている対処方法は駆除で、多くの動物が殺処分されますが、根本的な解決になっていません。最近ではハクビシン、キョン、アライグマなどの移入動物の被害も報告され、むしろ問題はますます複雑になっています。こうした野生動物による農林業被害は千葉県に限ったことではなく全国各地で見受けられますが、対策に成功している地域は、行政と猟友会のような組織だけで対応を検討するのではなく、地域の課題、まちづくりの課題として捉え、地元住民はもちろん、いろいろな専門家が協力して課題解決に取り組んでいます。今回、この機会に様々な立場の方からの意見を伺うと共に、野生動物と人が共存できる地域づくりに向けての案を出し合う場を設けたいと思ひます。	シンポジウム： 日時 5月21日 場所 我孫子市中央学院大学 6号館 5F(657教室)にて開催 プログラム: 基調講演 羽山 伸一 (日本獣医畜産大学獣医学部助教授 野生動物学) パネルディスカッション 羽山伸一 (同上) 栗原 裕治 (NPO法人千葉まちづくりサポートセンター副代表) 清水 享 (サージミヤワキ 電気柵研究員) 後藤 章浩 (帝京科学大理工学部アニマルサイエンス科4年) 千葉県? 市町村の担当者 (予定) 被害農家の方 (予定)	代表 中野 真樹子 副代表 石山 大 記録 李 謙一 委員 栗原 裕治、小野 鈴子、小島 望、渡辺 理美、清水 享、朝倉 幹晴
13. 里山と文化と伝統	遺跡からみた里山景観	「うさぎ追いかの山、小鮎釣りしかの川」のように、童謡でうたわれているような私達の暮らしがどこかで永続できる社会を考えると、食・農・環境と文化を考える視点が必要かと思ひます。今回は、「遺跡からみた里山景観」にスポットライトを当てます。縄文的な暮らしから始まって、江戸、明治、そして現代までに変わってきたわたしたちの暮らしを振り返り、景観に配慮したこれからの里地里山の保存と創出を文化・伝統と言う目線から考える良い機会でもあります。地域の文化資源や自然資源など、心が癒される空間をもっと知って、地域おこし等、広い視点からの新たな提案につながるような話し合いの場づくりから始めていきたいと思ひます。	シンポジウム： 日時 5月21日(土) 10:00～12:30 場所 我孫子市中央学院大学 6号館 5F (658教室) 10:00～ 趣旨説明 加藤賢三 (分科会代表) 10:10 講演 「遺跡からみた里山景観」 10:10～ 1. 縄文時代 上守秀明 10:40 (財)千葉県文化センター 上席研究員) 10:40～ 2. 弥生～中世 笹生 衛 (千葉県教育庁教育振興部文化財課) 11:10 文化財保護室 主任文化財主事) 11:10～ 意見交換 コーディネーター 12:30 西野 元 (国土館大学 文学部 非常勤講師) 野外体験: (1)場所:手賀沼および近郊 日時:6月12日(日) 10:00～15:00 (雨天中止) 備考:他分科会との共催予定。 野外体験: (2)場所:千葉県立房総のむら(親子体験) 日時:7月(日時未定) 備考:上総の農家の一日体験など。	代表 加藤 賢三 副代表: 記録 田桐 義啓 委員 平山 喜人、西野 元、福原 経正、笹生 衛、佐久間 豊
14. 里山と子どもの健康	化学物質から子どもを守る	私たちの生活や地域の環境からは、ダイオキシン類や水銀、カドミウム、鉛などの重金属類のほか、農薬類などさまざまな有害化学物質が見つかっています。とくに「環境ホルモン」の疑いのあるこれらの物質は、私たち大人よりも乳幼児や子どもたち、また小さな生き物たちに未来にわたって強く影響をもたらすとされています。これまで人類は自然の中で心身ともに癒され、生かされてきました。未来の子どもたちのためにも、「豊かな自然」を守り育て、「毒物のない社会」を創っていききたいと思ひます。	シンポジウム 1: 日時 5月21日 場所 我孫子市中央学院大学 6号館 5F(659教室)にて開催 10:00～11:00 藤原寿和氏 (有害化学物質から子どもの健康を守る千葉県ネットワーク代表) 講演 11:00～11:30 朝倉法子氏「佐倉からの報告」 11:30～12:30 質疑応答 シンポジウム 2: テーマ「残土処分と森林保全」 日程 6月25日(日) 9:45 内房線五井駅東口集合 9:50～12:00 市原栢橋エヌ・ティ・エル残土見学 13:00～17:00フォーラム 場所:市原サンプラザ - 2階プラザ - ホール (JR五井駅隣り) 講演「森林と地球環境保全」 藤森隆郎氏 (社団法人日本森林技術協会技術指導) 大槻幸一郎氏元副知事 (出席要請中) 討論会「房総の森林保全に今何が求められているか」環境省 国交省 林野庁から国の取り組みについて	代表: 藤原 寿和 記録: 半澤 勝男 委員: 井村 弘子、川北 美保子、朝倉 法子

資料まとめ: 里山シンポジウム実行委員会事務局  
荒尾 稔  
Tel .03-3824-6071 Fax .03-3824-5980  
http://www.jgoose.jp/satochiba  
tmlara@tml.co.jp